



かっせんはら100



＜宮城病院基本理念＞ 良い医療を安全に、心を込めて **ほんち**

新年度のご挨拶



日頃は地域医療連携室にご協力を賜りまして、誠にありがとうございます。ようやくCOVID-19 感染も落ち着きつつありますが、今後も感染の波はあると思われれます。しかし、その中で今年度は以前と同じような診療体制を再構築する一年でありたいと考えていますので、以下三点を年度初めの挨拶とさせていただきます。

- ①病診連携・病病連携について: コロナ禍の中でも可能な限りご紹介いただいた患者さんは受ける方針ではありましたが、感染状況あるいは院内のクラスター発生などでお受けできないこともありました。今年度はそのようなことがないように努めていきたいと思えます。
- ②救急体制について: 二回の大地震で以前の救急外来が使用不能となり、内科外来などを利用して救急患者の対応にあたりましたが、令和5年2月に救急車の搬入口含め新たな救急外来が完成し、すでにそこで救急対応を行っています。建物の損傷+COVID-19 感染拡大により十分な救急対応ができない時期もありましたので、今年は関連のある各消防署を訪問し、当院の救急対応に対する基本方針を再周知させて頂く予定です。
- ③コロナ対応病床の今後について: 5月8日より新型コロナウイルスの感染法上の分類が5類に引き下げられますが、当面の間当院としてはコロナ対応病床として10床を確保します。一方、コロナ病床確保のために中断していた地域包括ケア病棟も、病床上の扱いは確定していませんが、地域包括ケアに対応する病床として再開します。一時期難渋していたサブアキュート患者への対応が円滑にできるようになりますのでご利用ください。

本年度も皆様方の貴重なご意見を賜りながら、より良い地域医療連携を構築できればと考えておりますので宜しくお願い申し上げます

令和5年4月 国立病院機構宮城病院 地域医療連携室 安藤肇史





新任医師赴任のご挨拶



《内科医師》 結城 翼

4月から一般内科として赴任しました、結城翼と申します。
自治医科大学を卒業し仙台医療センターで初期研修を修了後、宮城県からの派遣として公立刈田総合病院、七ヶ宿町国民健康保険診療所、丸森町国民健康保険丸森病院へ赴任し、今年度より当院へ派遣となりました。
ここでは私自身のアピールの代わりに、一般内科のアピールをさせていただきます。



医療がどんどん進歩し、細分化されていく中で、患者さんが主体的かつ自由に医療にアクセスできる現代日本の環境は、時として諸刃の剣にもなります。自身の症状から診療科を半ば決めつけ、最初から専門医を受診してしまうことが、かえって不利益につながることもあるかもしれません。そういった「何科を受診していいかわからない」と悩む患者さんの最初の窓口となり、適切な医療を受けられるように調整するのが、われわれ一般内科医の大きな役割のひとつだと思っています。

私自身、特に人に誇れる特技や高い専門性があるわけではありませんが、ゆっくり話を聴くことだけは得意だと思っています。ぜひ、頼ってください。どうぞよろしくお願いいたします。

《脳神経内科医師》松本 勇貴



はじめまして。この度、宮城病院に勤務させていただきます脳神経内科医の松本勇貴と申します。

私は前年度まで4年間、東北大学大学院医学系研究科神経内科学分野及び未来型医療創造卓越大学院という2つの大学院プログラムに所属し、前者では主に神経免疫疾患の臨床研究、後者ではAIや機械学習、ビッグデータの解析方法、研究手法を学んでおりました。

力不足ではございますが、神経内科疾患の診療を通して山元町一帯の地域医療に貢献できるよう精一杯邁進して参りたいと存じます。

皆様、どうかご指導ご鞭撻のほど何卒よろしくお願い申し上げます。

地域医療連携室の紹介

令和5年度、新メンバーを加えて始動します。地域の方々、関係機関の皆様のご協力を頂きながら、地域医療に携わっていきたいと考えております。本年度もよろしくお願いいたします。

前列：地域医療連携室長 安藤肇史(中央)
地域医療連携係長 菊地操子(右)
相談員 川村健太

後列：地域医療連携室副室長 齊藤貴洋(左)
(右から)相談員 木村麻美・板橋彩子
看護師 作間智美





地域医療連携室新スタッフ紹介



《地域医療連携室副室長(経営企画室長) 齊藤 貴洋》

4月に北海道がんセンターより赴任いたしました齊藤と申します。宮城病院には今回初めて勤務させていただくこととなりました。どうぞよろしくお願いいたします。

宮城病院は昭和14年に創立され、この地にて長きにわたり地域の方々に医療の提供を行ってきた歴史のある病院です。

近年では新型コロナウイルス感染症という未曾有の事態により私たちの生活や社会経済活動が一変しましたが、まだ完全収束には至っていないものの、マスク着用の扱いや五類へ基準が引き下げ実施になるなどアフターコロナに向けて社会が動きだしています。

日本の高齢化率が高まる中、必要な医療・介護ニーズが変化するなど医療・介護の提供体制を取り巻く環境も大きく変化しており、それぞれの病院・介護施設等が持つ機能の特色を生かし、より一層の連携を図る必要があるとされています。

医療機関や介護福祉施設、行政機関等の皆様との連携を更に強化し、地域の皆様に良い医療を安全に提供し、今後もこの地にて必要な存在で有り続けられるよう微力ながら貢献して行きたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



《地域医療連携係長 菊地操子》



宮城病院自慢の満開の桜の花に迎えられ、懐かしさと緊張で令和5年4月に着任いたしました地域医療連携係長の菊地操子と申します。10年ぶりに戻った宮城病院には、懐かしいスタッフもたくさんいて非常に心強いばかりです。この宮城病院で心新たに自分が担うべく役割を考えると更に身の引き締まる思いです。

前施設では、地域医療連携室や地域包括病棟、重症心身障がい児者病棟などを経験させていただきました。その経験を活かし、宮城病院での入院治療が一段落しましたら、安心して生活の場として選ばれたところへ帰ることができるようにチーム一丸となって支援したいと考えています。

明るくげんきな宮城病院の地域医療連携室スタッフと共に、院内各部門スタッフと協働し地域と病院が切れ目のない連携ができるよう頑張りたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。





医療と看護・介護多職種連携研修



もし同居の家族が感染したら!?
おうちでできる感染対策

医療と看護・介護多職種連携研修をWebにて開催しました。

1月に第11回「コロナ病棟で働くスタッフに聞いてみよう～おうち・施設で応用できるお話～」を配信し、56名の方から視聴申込みがありました。

「タイムリーな内容だった」「家族感染を予防できそうだ」といった感想をいただきました。



4. こまめな手洗い

□ こまめに石鹸で手を洗いましょう。
アルコール消毒をしましょう。

接触感染に注意!



帰宅場面



✓ 1週間で2回以上同じ商品を購入する

続いて2月には第12回「認知症の早期発見について」を配信し、38名の視聴申込みがあり、「わかりやすかった」

「家族にも伝えることができる」といった感想をい

ただきました。「シリーズ化してほしい」「認知症の方とのかかわり方を知りたい」という意見もあり、「認知症」への注目度が高いこと、対応に困った経験をされた方が多いことがうかがえました。

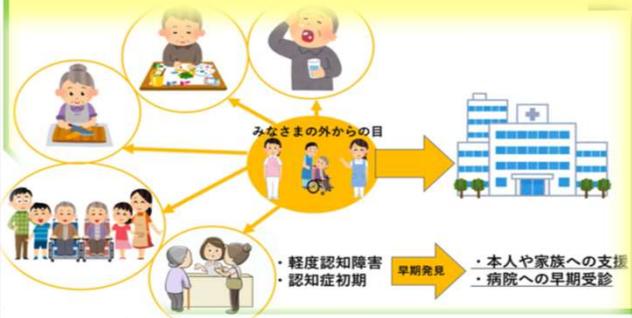
令和5年度の研修計画に認知症の続編などを取り入れていけたらと考えています。

今後の研修の内容と方法については検討しているところです。決まり次第、ご案内いたしますので、ぜひご参加ください。

買い物場面



✓ 財布が小銭で多くなる



ご参加ありがとうございました



～編集後記～

2023年4月 新年度を迎えました。ここ数年、猛威を振るっていたコロナウイルス感染症も、5月から分類が引き下げられます。様々な生活場面で、徐々に規制が緩和されますが、流行前の生活様式に戻れるのは、もう少し先なのかもしれません。まだまだ感染対策が必要な毎日が予測されます。早く皆様の笑顔が、見られる世の中になってほしいと願うばかりです。

地域医療連携室 作間

〒989-2202

亘理郡山元町高瀬字合戦原100番地

TEL (0223) 37-1131 (代表)

<http://miyagi.hosp.go.jp/>

【発行・編集】

独立行政法人国立病院機構宮城病院

地域医療連携室

